

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長	矢野 智之	担当者名	立山 敏行
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『コロナ禍における体育祭の実施について』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	----------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

生徒が自ら課題を発見し，解決するといった資質・能力

取組のねらい

- ・コロナ禍で体育祭を実施する際の課題を発見させ，解決する資質・能力を育てる
- ・困難の中で，体育祭を実施できたことに対する充実感を高め，生徒相互の絆を深める

取組の具体的内容

取組の創意工夫

- ・生徒会で，実施する際の課題を出させた（8～9月）
- 感染リスクを減らすための工夫
 - ① 接触を伴う競技を減らし，非接触の競技を増やした競技種目，日程案の決定。
 - ② 大縄跳びや綱引きは人数を減らし，選手間の間隔を広げる。
 - ③ 競技時間の短縮，準備時間の短縮及び予行練習の中止，入場行進（練習に期間がかかる）の中止等の提案。
 - ④ 保護者参観，来賓招待の中止及び保護者参加型の種目の変更の提案。
- ・生徒会案の体育委員会への提示（体育委員会）（9月上旬）
競技種目が減ったり，接触する種目がなくなるのは面白くないという意見はあったが，協議の末生徒会案を了承。
- ・保健委員会との連携（10月上旬）
個人種目（キャタピラー）でも人が交代する時は，殺菌が必要ではないか，リレーは使い捨ての手袋をすべきではないかなどの提案があった。

- ・感染リスクを減らすためには何が必要かを，制限を設けず，自由に意見を言わせた。
- ・生徒だけでなく，保護者や地域住民への影響も考えさせた。
- ・時間はかかったが，議論の流れを，生徒会→体育委員会・保健委員会→各クラス→体育委員会・保健委員会→生徒会及び教職員という形になるようこだわった。

取組の成果と課題

（成果）

- ・体育の時間での練習・準備を除き，前もっての練習・準備（予行等）がほぼなしで体育祭を実施することができた。
- ・例年の種目・日程だと，前もって準備に多くの時間を費やし，時間割変更等が必要であったが，コロナ禍に際して，工夫次第で体育祭が準備も含めて，当日のみで実施できたこと。
- ・当日会場設営から始められたので，天気の影響を受けなくなり，実施や延期が容易に行えるようになった。
- ・普段の体育祭では考えなかったような条件下で，かえって生徒の自由な意見・発想を引き出すことができた。

（課題）

- ・予行がなかったため，次の種目の準備や生徒の整列等に時間がかかった。そのため，競技と競技の間が間延びし，進行がスムーズにならなかった印象が残った。